

製品名: FKBP1A/B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11002**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	
別名	
遺伝子 ID	2280/2281
SwissProt ID	P62942/P68106
免疫原	ヒト FKBP1A/B 由来の合成ペプチド アミノ酸範囲: 26-75

背景

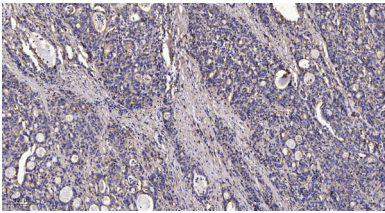
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、免疫調節およびタンパク質の折り畳みと輸送に関わる基本的な細胞プロセスにおいて役割を果たすイムノフィリンタンパク質ファミリーのメンバーです。このタンパク質は、免疫抑制剤 FK506 およびラパマイシンに

結合するシス-トランスプロリルイソメラーゼです。I型 TGF- β 受容体を含むいくつかの細胞内シグナル伝達タンパク質と相互作用します。また、複数の細胞内カルシウム放出チャンネルと相互作用し、四量体骨格筋リアノジン受容体の多タンパク質複合体形成を調整します。マウスでは、この相同遺伝子の欠失により、左室筋緻密化不全症と呼ばれる先天性心疾患が発生します。同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシングバリエーションが同定されています。ヒトゲノムには、この遺伝子に関連する 5 つの偽遺伝子が含まれており、少なくとも 1 つは転写されます。[b 触媒活性: ペプチジルプロリン (オメガ=180) =ペプチジルプロリン (オメガ=0)]。[酵素調節: FK506 とラパマイシンの両方によって阻害される。] [機能: 骨格筋筋小胞体のカルシウム放出チャンネルの構成要素であるリアノジン受容体アイソフォーム 1 (RYR-1) の調節に役割を果たす可能性がある。骨格筋 RYR1 つあたり 4 つの FKBP12 分子が存在する。PPIase はタンパク質の折り畳みを促進する。オリゴペプチド中のプロリンイミドペプチド結合のシス-トランス異性化を触媒する。] [類似性: FKBP 型 PPIase ファミリーに属します。] [類似性: FKBP 型 PPIase ファミリーに属します。 FKBP1 サブファミリー。] [類似性: 1 つの PPIase FKBP 型ドメインを含む。]

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト胃腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、45 分)。